

## PSA 検診導入地域（長崎県佐世保市）に見られた 前立腺がん死亡率減少

早田 みどり\* 陶山 昭彦 関根 一郎 古川 正隆  
井川 掌 酒井 英樹

### 1. 背景

日本における前立腺がん罹患率はアフリカ系男性の約 1/10 と高くはないが、最近増加傾向が著しい。PSA 検診の有効性検討を目的として、長崎県佐世保市では 2003 年より 50-79 歳を対象とする PSA 検診が開始された。5 年間の PSA 暴露率は 25%であった。

### 2. 対象および方法

長崎県がん登録データを用いて、1985-2008 年における長崎県と佐世保市の前立腺がん罹患率、死亡率の推移を観察した。また、診断契機別に検診による発見群と症状に基づく発見群に分け、生存率の推移も観察した。

### 3. 結果

1985-2006 年における前立腺がん罹患率は長崎県では 7097 例、佐世保市では 1377 例、1985-2008 年の死亡者は長崎県では 2257 例、佐世保では 386 例であった。長崎県と佐世保市の年齢調整罹患率は何れも 1990 年代半ばから緩やかな増加が始まり、2003 年以降、急激な増加が認められた。佐世保市では 2004 年にピークを迎え、その後、減少に転じており、長崎県では 2005 年にピークを迎え、2006 年に減少に転じていた。2003 年以降両者の罹患率に差が見られるようになり、佐世保市の方が人口 10 万人当たり、10-20 人上回っていた。死亡に関しては、長崎県では人口 10 万人当た

り 4-6 人の間にあり変動は見られなかったが、佐世保では 2006 年の 8 人から 2007 年の 2 人へと減少していた。診断契機別の 5 年相対生存率の推移では、1989 年以降いずれの群も生存率向上が認められ、1989-1993 年診断患者では検診群 62%、症状群 57%から、1999-2003 年診断患者では夫々 100%、77%と、いずれも生存率の向上が観察された。

### 4. 結語

佐世保市における PSA 検診暴露率は 5 年間で 25%と低かったものの、検診導入後の罹患率急上昇とその後の低下が認められた。死亡率に関しては、PSA 検診開始後に減少が観察された。罹患率、死亡率の今後の動向を注意深く見守る必要がある。

---

\*放射線影響研究所疫学部（長崎）

〒850-0013 長崎市中川 1-8-6

---